

「中期計画 2006-2010 の方向性確認のためのグループインタビューの実施」

調査の目的：

- ・学生がどのように学習しているのかを明らかにする
- ・学習支援に対する顕在的・潜在的なニーズを明らかにする

調査の概要：

対象：学部 1,2 年生

実施キャンパス：日吉、湘南藤沢

実施日：2007 年 7 月 20 日（湘南藤沢）、27 日（日吉）

グループ構成：図書館に来る/来ない、各 1 グループ 5~7 名、全 4 グループ 23 名

調査結果：

1. 学習の仕方

- ・仲間と教えあって学習する
- ・一人で集中して勉強する

2. 学習のための道具

- ・教科書、自分のノート、友人のノート、過去問（日吉）
- ・Web、はんだごて、映像編集機（SFC）

3. 学習に必要な人的支援

- ・友達に聞く：知り合い
- ・教員、SA の大学院生、同じ授業をとっている友達に聞く：知識やスキルを持つ人
- ・精神的支援

4. 学習以外のニーズ

- ・飲食：学習中の飲食は、日常的で普通の行為。公共の場における妥当なルール設定に対する抵抗はない
- ・読書空間：教養のための資料（本、DVD、CD）、本の情報（内容、書評、お勧め）、見せ方や置き方の工夫、心地よく、安全な場所

5. 学習支援の方向性

- ・環境整備：ゾーニング：みんなで勉強する場、一人で勉強する場、読書のための場
- ・道具：教科書、PC、データベース、はんだごて、映像編集機、ソファなど
- ・人的支援：道具の使い方、レポートの書き方、精神的な支援、利用者との関係作り

6. 図書館全体に対するニーズ

- ・安全で、心地よく、必要なものが揃っており、目的のためにゾーニングされた空間
- ・全体像の把握・見通しが持てる一目でわかるナビゲーション
- ・学習の文脈の中でのタイミングの良いサービス
- ・簡単かつコストがかからない（時間もお金も）手続き
- ・「マスの学生」vs「組織としての図書館」から、「個別のレポートを書く一人の学生」と「支援のための知識とスキルと名前を持った図書館員」という関係作り

7. 課題

- ・利用者の文脈の中での提供：各種基盤整備
- ・人材育成

以上